

【樹木の部屋】

アラカシ (ブナ科コナラ属 *Quercus glauca*)

和名：アラカシ(粗櫨) **別名**：クロガシ、ナラバガシ **英名**：ring-cup oak

ブナ目 常緑広葉高木 **原産地**：日本、中国、東南アジア、ヒマラヤ

花言葉：勇気 **花色**：黄、黄緑



← 写真-1 アラカシ

撮影日：2020年5月8日

撮影場所：奈良市郊外にて

撮影者：M さん

▽ 写真-2 アラカシの小枝

撮影日：2020年5月8日

撮影場所：奈良市郊外にて

撮影者：M さん



← 写真-3 アラカシの葉(表)

撮影日：2020年5月8日

撮影場所：奈良市郊外にて

撮影者：M さん

→ 写真-4 アラカシの葉(裏)

撮影日：2020年5月8日

撮影場所：奈良市郊外にて

撮影者：M さん



かつてはカイズカイブキ、ウバメガシと並んで、関西の三大生垣用樹とされた樹です。公園や学校にもよく植栽され、建築材として利用された樹です。また「ドングリの木」の代表的な樹種です。

宮城県以西の本州から沖縄までとカシの仲間では最も広範にわたって分布し、特に西日本に多く、関西地方ではごく一般的に庭木として使われています。株立ちにして、短めの枝葉を付けて仕立てたものは「棒ガシ(ボウガシ)」と呼ばれ、一定の人気があります。

枝の出方が荒いこと、幹に割れ目が多くて粗い感じがすること、材が堅いことなどから「粗い堅し」→「アラカシ」と呼ばれるようになったそうです。

樹皮は黒っぽい灰色。勢いの良い若木の樹皮は平滑ですが、生長した木の樹皮は小さな凹凸があります。

葉は光沢のある楕円形で厚みがあり、裏面は粉を吹いたように白く、中央付近から先端に向かって荒い鋸歯があります。新芽は、柔らかくてやや赤みがあります。

開花期は4月～5月で若葉が完全に開ききらないうちに咲きます。雌雄同株で雌雄異花です。

花は芽吹いた枝の付け根に雄花、上部に雌花が咲きます。雄花は茶褐色の苞と雄蕊からなり、垂れ下がった花穂(雄花序)に10～15個が咲きます。花粉を噴き出すと花穂全体が黄色っぽく見えます。雌花は短い花茎を直立させ、3～5個がまとまって咲きます。冬芽はブナ科の木には多い頂生側芽と呼ばれ枝の先端に集まります。

年に1回～2回の剪定が必要です。剪定には刈り込みと枝抜き(枝透かし)があります。剪定の適期は、春に芽吹いた枝の生長が落ち着く6月下旬～7月と、気温の低下とともに生育スピードが落ちる11月～12月です。刈り込みは全体の形を整えるために行います。枝抜きは余分な枝や樹冠内の枯れ枝を切り落とす作業です。枝抜きによって、日当たりと風通しが良くなり、病害虫もつきにくくなります。

生垣のように姿重視の場合は、刈り込みのみでかまいません。それ以外は樹形が乱れてきたら刈り込み、茂りすぎて重い感じになってきたら枝抜き、という風に状況に応じて使い分けます。生け垣にする時は、こまめに刈り込み、内部が蒸れないように注意し、側芽の萌芽を促します。

カシ類は刈り込みに強い庭木です。芽吹く力が強いので、剪定のやり方で木

を枯らしてしまうことは殆ど無いと思います。が、花芽が分化するのは前年の8月頃とされているので、秋から春にかけて剪定を行って、新梢を切ってしまうと花が咲かなくなります。

株立ちの棒ガシ仕立てにする時は、できるだけ若い木のうちに樹形を作るようにします。太すぎる脇枝をのこぎりで元から切り落とし、小枝がついている脇枝は、小枝を残すように短く切り戻します。

<ちょっと一言>

*シラカシとの見分け方

- シラカシと比べるとアラカシの葉は幅広で卵型に近く、濃い緑色です。
- シラカシは葉の縁に浅いギザギザ(鋸歯)がありますが、アラカシは葉の先端付近のみに大型のギザギザ(鋸歯)があります。
- アラカシの葉の裏には毛がありますが、シラカシにはありません。